
処刑台への1時間

クレしん・ジャック

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

処刑台への1時間

【Nコード】

N5981V

【作者名】

クレしん・ジャック

【あらすじ】

謎のプリキュアが現れ、プリキュア達は敗北にまで追いやられ、なぎさ、咲、のぞみ、ラブ、つばみ、響達が連れ去られてしまった。1時間後、彼女たちは縛首刑で処刑される。他の仲間たちは間に合い、救うことができるのか！？

ガチャン！！！！

死刑囚「おかあ・・・・・・・・ち・・・・・・・・・・・・・・・・や・・・・・・・・・・・・・・・・ん・・・・・・・・」

ガク・・・・・・・・

医者「心臓停止を確認しました。ご臨終です。」

死刑が終わった・・・・・・・・。。。

殺るのは人間

加音町・・・音楽が響きわたる町・・・・・・・・。

ひびき「かなで、おはよう。」

かなで「ひびき、おはよう。」

彼女らは、誰が見ても普通の中学生。しかし彼女たちはある秘密を持っている。そう、彼女たちは、

伝説の戦士「プリキュア」であるのだ。こういうことは誰にも知られてはならない・・・・・・・・。

エレン「おはよ。」

彼女は、マイナーランド・・・つまり敵の一人であったが、ひびきとかなでによって、プリキュアとして

戦っている・・・・・・・・。

かなで「みた？今日のテレビ、あの死刑囚の死刑が執行されたらし

いの。」

ひびき「見た見た。すごく大きく載ってた。」

エレン「そういえば、死刑って誰がやるの？」

ひびき「人間でしょう・・・」

かなで「その人は、罪にならないの？」

ひびき「ならないよね・・・」

エレン「そんなの無責任なんかじゃ・・・」

ハミィ「たしかにそうだにや〜」

この猫は、ハミィ。ひびきたちのパートナー。

かなで「・・・殺るのは人間か・・・」

自分は、無関係のように言っている、3人……。このあと、
怖の底なしに落とされること知らない3人であった

証拠などない（前書き）

手抜きじゃないからな。

証拠などない

ここ………、希望ヶ丘………。

えりか「つぼみ、おはよー」

つぼみ「おはようございます」

彼女らも、プリキュアである……。

2人はある道場に行く。

えりか「いちきー、おはよー」

いつき「おはよー」

彼女もプリキュアである。

つぼみ「お、お、おはようございます。(汗)」

いつき「おはよ、つぼみ」

つぼみは、赤くなっていた。なにしろ、男と女間違えたからである。
いわゆる、おかま・・

ゆり「オカマなわけないでしょ！！！！（怒）」

えりか「ゆりさん、いつのまに・・・」

いつき「誰と話してたんですか？」

ゆり「誰でもないわ」

えりか「そういえばさ、あの男が処刑されたってテレビでやってたわ」

つぼみ「みました」

いつき「証拠もないのに死刑になったんだよ・・・」

えりか「そういえば、どうやってやるのかな・・・、死刑って・・・？」

ゆり「首吊り・・・？」

えりか「こわっ！！！」

この4人も、何も知らない・・・。

過去の処刑（前書き）

フレッシュプリキュアは、幼児テレビに良くない印象があったため、タブーという声があった。

過去の処刑

ここ、クローバータウン……。

ラブ「お待たせー」

彼女もプリキュアである。彼女は図書館にいる。

祈里「ラブちゃん、遅いよ」

みき「これで全員ね」

せつな「あゝ、暑い」

3人もプリキュアである。

4人は図書館に入る

祈里「見て、これがルイ16世の処刑よ。ギロチンが使われたのよ。」

せつな「首を切り落とすの!？」

ラブ「こわっ!!! (汗)」

みき「フランス革命の時は、3万人も処刑されたって…… (汗)」

ラブ「ひえええええ…… (汗)」

タルト「おっかないことや (汗)」

シオン「コワイでちゅ……」

ラブ「だ、大丈夫だよきつと……」

彼女たちも、知らなかった。ルイ16世と同じ目に合うことを……。

偽善者？

ここ、「ナッツハウス」である。

のぞみ「ココ、ナッツ、シロップ、おはよう」

りん「おはよう」

うらら「おはようございます」

こまち「おはようございます」

カレン「おはよう」

彼女たちもプリキュアである。

ココ「おはよう、みんな」

ナッツ「……………」

シロップ「きたか」

偉そうに……。

しばらくして……

のぞみ「手を抜くな!!!!」

クレしん・ジャック「(#。D) ダマレ!!」

のぞみ「こら————!!!!——ミルク!!——チョコレート返しなさい——い!!!!——」

ミルク「早く食べないからデス!!!!」

こいつは、ココのお世話係である。

くるみ「全く!!!!——」

偽姿である。

ナッツ「ケーキ買ってきたぞ。」

のぞみ「待ってました〜〜」

うらら「もう待ちきれませんよ〜」

ケーキが取られる・・・。。。

りん「昨日さ、あの男が処刑されたって。」

ミルク「ギロチンで首はねたんじゃないの?」

のぞみ「くるみ〜、食べてるときにいわなでよ〜」

カレン「ギロチンじゃなくて首絞めじゃないの?」

のぞみ「だからいわないでよ〜〜（汗）」

幸せな6人である

怖いのなし

夕風町……

中学校の離れたところに、巨大な木がある。

咲「落ち着くな〜」

舞「そうね」

この2人もプリキュア……………。

咲「昨日さ、あの男が処刑されたんだって。」

舞「聞いた、聞いた」

フラッピ「フラッピの国は、そういうのはないんだッピ。」

チョッピ「そうダッピ」

パートナーな妖精である。

舞「私たちも処刑されるのかな？」

咲「そんなことないよ。人を殺さなけりや大丈夫だよ。」

ムーブ「本当？」

フープ「本当？」

咲「大丈夫だよ」

わかってない……

分かってない

ここ、ベローネ学院……。

なぎさ「ほのか、またたこ焼き食べに行こ。」

ほのか「そんなにたべたら体重増えちゃうわよ?。」

ひかり「でも、その分こっちの景気が良くなりますしね。」

彼女たちもプリキュアである。パートナーの妖精、メップル、ミップル、ポルン、ルルンがいる。

なぎさ「昨日さ、処刑された人がいるんだって。」

ひかり「その人、死ぬ前にひどくわめいたんですって。」

メップル「死刑って、そんなに怖いメボ?。」

なぎさ「単にその人が弱虫なのよ。そういうの怖がるのはみんな男ばかりなもの。」

ほのか「なぎさ！それは言い過ぎよ！！」

ひかり「分かってませんね・・・」

メップル「なぎさは分かってないメボ。」

なぎさ「海に沈めるわよ？（怒）」

メップル「ごめんなさい（――）」

分かってない・・・。全く・・・。

続く

分かってない（後書き）

次回

なぎさ「あなたは誰!？」

つぼみ「私たちをなんでここに連れてきたんですか!?!?!」

?!?!「よつのあるのは、レッドチームだけ」

新たなる陰謀

ゴビ砂漠・・・・・・・・・・

ひびき「じ、じいどじい。」

確か、加音町にいたはずであった、ひびきたち・・・・・・・・。

かなで「あそこに、まえ出会ったみんなよ。」

ハミィ「行ってみるにゃ」

エレン「うん」

りん「あ、ひびきたちだ」

こうして、23人集まった。いつぶりであろう。4月以来か・・・・・・・・。

なぎさ「本当にここどこ!？」

つぼみ「ゴビ砂漠……」

かれん「なんでいきなり……」

どこからともなく笑い声がする。

???「……ふはははは……」

のぞみ「な、なに？」

続く

新たなる陰謀（後書き）

ネタがないため、ここでおひらき・・・・・・・・・・（TT）（

謎の人物

いきなり空から、人が舞い降りてきた。

エレン「だ、誰なの！？あの人！？」

みき「プリキュア！？」

その姿は、ヘアーはストロングヘアーでプラチナ色の髪の毛で、顔が半分骸骨で隠れてており、全身青色の姿。肩には魔獣の牙が生えており、胸にリボンとドクロが付いている。ロングスカートで、足にボロボロのブーツを履いていた。

ほのか「あなたは誰ですか！？」

「???」お前たちに知る必要はない。用のあるのはレッドチームだけだ」

6人「???」

かなで「ならなんで私たちも！？」

「???」お別れ会はしてないのか?」

かれん「どついつことなの!」?

「???」もうすぐ帰れないところに行くからな。」

なぎさ、さき、のぞみ、ラブ、つぼみ、ひびきの心に嫌気が刺した。

うらら「なにを言ってるんですか!?!一体どこに行くんですか!」?

「???」・・・・・・」

せつな「なぜしゃべらないの!」?

「???」あの世だ」

6人「!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

続く

戦闘開始

響「私たちを連れて、何するかわかんないけど・・・」

つぼみ「あなたの思いにはさせません！！！」

なぎさ「あの世に行くなんて、まだ早すぎる！！！」

咲「私たちはまだやることがいっぱいあるんだから！！！」

ラブ「死んだら、ドーナッツ食べなくなっちゃうじゃない！！！」

つぼみ「へえ？」

のぞみ「そうよそうよ！！！！死んだらチョコレートだって食べれなくなるんだから！！！」

つぼみ「あの・・・」

なぎさ「それに、あかねさんのたこ焼きだって食べれなくなるし！！！」

つぼみ「ちょっと・・・」

響「奏のケーキだつて食べれなくなるんだから!!!!」

つぼみ「皆さん!!!!説得力が感じませんよ!!」

???「それはただの欲だ・・・。私は欲が嫌いなのだ!!!!欲は人間をダメにする。」

りん「どんな事情があるか知らないけど!!」

ほのか「あなたの思いにはさせないわ!!!!」

奏「みんな!!!!響達を守るのよ!!!!」

つぼみ「私たちも戦います!!!!」

のぞみ「こんな状況で人任せにはできない!!!!」

響「ここで決めなきゃ女がすたる!!!」

なぎさ「みんな、いくよ!!!」「おう!!!」

「デュアル・オーロラ・ウェイブ!!!」

「ルミナス・シャイニング・ストーム!!!」

「デュアル・スピリチュアル・パワー!!!」

「プリキュア・メタモル・フォーゼ!!!」

「スカイローズ・ライスレイト」

「チェンジ・プリキュア・ビートアップ!!!」

「プリキュア・オープンマイハート!!!」

「レッツプレイ・プリキュア・モジュレーション!!!」

すると、彼女たちは光だし、現れたのは・・・

「光の使者、キュアブラック！！！」

「光の使者、キュアホワイト！！！」

「輝く魂、シャイニールミナス！！！」

「輝く金の花、キュアブルーム！！！」

「きらめく銀の翼、キュアイーグレット！！！」

「大いなる希望の力、キュアドリーム！！！」

「情熱の赤い炎、キュアルージュ！！！」

「はじけるレモンの香り、キュアレモネイド！！！」

「安らぎの、緑の大地、キュアミント！！！」

「知性の青き泉、キュアアクア！！！」

「青いバラは秘密のしるし、ミルキイローズ！！！」

「ピンクのハートは、愛あるしるし、もぎたてフレッシュ、キュアピーチ！！！」

「ブルーのハートは希望のしるし、つみたてフレッシュ、キュアベリ！！！」

「イエローハートは祈りのしるし、とれたてフレッシュ、キュアパイン！！！」

「真っ赤なハートは幸せのあかし、熟れたてフレッシュ、キュアパッション！！！」

「大地に咲く一輪の花、キュアブロッサム！！！」

「海風に揺れる一輪の花、キュアマリン！！！」

「陽の光浴びる一輪の花、キュアサンシャイン！！！」

「月光に冴える一輪の花、キュアムーンライト……！」

「爪弾くは荒ぶる調べ、キュアメロディ……！」

「爪弾くはたおやかな調べ、キュアリズム……！」

「爪弾くは、魂の調べ、キュアビート……！」

「我ら、伝説の戦士、プリキュア……！」

「……素直にいうことを聞けばいいものを……、そのはらわたやぶいてくれる……！！……！」

戦いが始まった。

続く

戦闘開始（後書き）

ずいぶん遅れました

敗北

謎のプリキュアを目の前にしたなぎさ、咲、のぞみ、ラブ、つぼみ、響達とみんなは変身をし、戦っている。

ブラック「行くよ!! ホワイト!!」

ホワイト「うん!!」

2人は謎のプリキュアに飛び蹴りをおみまいした。しかし、簡単によけられた・・・。

???「なんというスピードの遅さ・・・。よく今まで戦うことができた・・・」

ブルーム「バカにしないでよ!!!これならどう!!!」

ブルームは、無数の鉄拳を放った。しかし、驚くことに全てよけられた・・・。

イーグレット「そんな・・・」

リズム「私たちの攻撃を読まれてる・・・!?!」

???「そのとおりさ!!!!!!お前たちなどの攻撃などすぐ読める
!!!!!!」

ブルーム「このー!!!!」

その時、謎のプリキュアは姿を消した。

ブルーム「え!?!どこ!?!」

Blossam「き、消えた!?!」

その瞬間、ブルームの背後に謎のプリキュアが現れ、ブルームは回し蹴りを喰らう。

ブルーム「きゃあ!!!!!!!!!!!!!!」

イーグレット「ブルーム!!!!!!」

サンシャイン「これなら・・・!!」『花よ! 舞い踊れ! プリキュア・
ゴールドフォルテ・バースト!!!』」

サンシャインのシャイニータンバリンから大量の光線が謎のプリキュアに向けて発射される。

???「・・・・・・」

マリ「あれ? 動かない」

メロディ「諦めたんじゃない・・・」

すると謎のプリキュアはなんと腕を振りたたき返し、その光線がサンシャインに帰ってきた。

サンシャイン「きゃーーーーー!!!!!!!!!!!!!!」

ムーンライト「サンシャイン!!!!」

ムーンライトがサンシャインをかばう。

ドオオオオオオオオオオオン!!!!!!

サンシャイン「ありがとう、ムーンライト。大丈夫!？」

ムーンライト「大丈夫よ」

ドリーム「なんてやつなの!？」

ピーチ「叩き返すなんて・・・」

????「お前たちの力はそんなものか?ならば、今度はこっちから行こう・・・」

すると謎のプリキュアは両手の指を地面に突き刺した。

ビート「何するっていうの!？」

その瞬間、なんと地割れが起き、その地割れが彼女たちに襲つ。

「キャーーーーー!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

みんな地割れに落ちてしまった。そして謎のプリキュアは割れた地面を強引にくつつけた。

ブロッサム「いや――――！！！」

ブラック「ぐうつ……！！！」

そしてその割れ目から、噴火が起こった！！！！

「きゃ――――！！！！！」

浮き上がったプリキュア達は地面に落っこちた。彼女たちはもう立つ力もない……。

???「情けない……。よく伝説の戦士と言われたな……。伝説がきいて呆れる……。」

謎のプリキュアはブラック、ブルーム、ドリーム、ラブ、ブロッサム、メロディを担いで、東の方に飛んでいった……。

続
く

残された仲間

フランスの首都、パリ・・・

「ナンダアノシロハ!？」

「イツノマニアラワレタンダ!！」

その城に、謎のプリキュアが入っていった・・・。もちろん、なぎさ、咲、のぞみ、ラブ、つぼみ、響達もいる。

兵士「おかえりなさいませ、キュアブラッド様」

キュアブラッド「城の警備を固める。残った仲間たちがくるかもしれない」

兵士長「はっ!！」

キュアブラッドの行く先には、6つの結んだ縄がかけられている。

???「おかえりなさいませ」

キュアブラッド「デーム、準備は出来ておるか？」

デーム「もちろんでございます」

キュアブラッド「人間共の哀れな顔が見てみたいものだ……。はは……。。」

ゴビ砂漠……

ココ「み、みんなーーーーー!!」

ナッツ「大丈夫かナッツ!？」

りん「だ、大丈夫よ……。。」

えりか「でも・・・、つばみたちが・・・。」

彼女たちは、キュアブラッドの攻撃によって、もとに戻ってしまっ
た。

ココ「あいつ、どこかで見たことがある」

エレン「どんなやつなの？」

ココ「確か、一番最初にプリキュアになったキュアデスに似てる」
「」

ほのか「デスって確か英語で『死神』・・・」

「!!!!!!」

うすら「し、死神!!?」

続く

オリキャラ紹介

デスゴール城

キュアブラッド：いくつかの骸骨を身に付けたプリキュア。人間たちを嫌ってる。

デーム：キュアブラッドの忠実な部下。キュアブラッドによって生まれた。

ルイ16世：フランス革命時に処刑された国王。キュアブラッドによって生き返り、強力な力を手に入れた。

兵士長・兵士：過去に処刑されたゾンビ。キュアブラッドによって蘇る。

ドラムー次元海賊団

ドラムー：海賊の首領。キュアブラッドのいるデスゴール城の宝を狙ってる。

キュアデス：初めてプリキュアになったプリキュア。過去は不明。

キュアデスの過去

えりか「死神ってどういうこと!?!」

奏「最初になったプリキュアが死神なんて!?!」

チヨッピ「ホントだチヨピ・・・」

タルト「ホンマやんけ!?!」

ココ「キュアデスは、その名のとおり『死神』だココ。でも、正義感があったココ。」

デスゴール城

ブラック「・・・ここ、どこ・・・?」

ブルーム「暗くてよく見えない・・・」

ドリーム「手足が動かない・・・」

ピーチ「縛られてるのね・・・」

ブロッサム「どうなるんですか・・・？」

メロディ「わからない・・・」

そのとき・・・、部屋がローソクで照らされた。

キュアブラッド「目覚めたか。人に陥る者たちよ・・・」

ブラック「ほんとにあなたは誰なの？」

キュアブラッド「我が名は、キュアブラッド」

メロディ「ブラッド・・・!!」

ブロッサム「『血』に意味・・・!!」

デーム「死刑囚の名を発表します。ブラック・ブルーム・ドリーム・ピーチ・ブロッサム・メロディ、
以上です」

ピーチ「死刑囚！？どういうこと！？」

キュアブラッド「お前たちに告ぐ！！一時間後、処刑する！！！」

6人「！！！！！」

キュアブラッド「一時間も待っていれば退屈だろ。キュアデスの話
でもしよう」

ゴビ砂漠

かれん「キュアデスも私たちと同じようなものだったの？」

ナッツ「そうだなッツ」

ココ「昔、この世を征服しようとしてた『ドルーク博士』の野望を
打ち砕くため戦ったココ」

キュアブラッド「だが、人間共はそのキュアデスを処刑した!!」

ドリーム「そんな・・・」

ココ「その強い力が人間を死刑の道具にしてしまったココ」

エレン「そんなひどいことが・・・」

うらら「もし、あのプリキュアが生まれ変わりだったら・・・」

ココ「のぞみたちは処刑されるココ!!!!」

えりか「大変!!」

タルト「それはいかん!! シフォン頼む!!」

シフォン「プリップー!!」

みんな、瞬間移動をした

続く

キュアデスの過去（後書き）

下ネタ嫌い

救出開始

デスゴール城・・・

白い光が現れた。

メップル「着いたメポ」

いつき「中には入れないの？」

ココ「ここまでが限界ココ」

ナッツ「今のままじゃプリキュアの力が足りないナッツ!!」

ココ「ミラクルライトで力を集めるココ!!」

「プリキュアに力を!!!」

妖精たちがミラクルライトをかざすと、みんなは光に包まれ、プリキュアの姿になった。

イーグレット「ありがとう。みんな」

コフレ「そんなことより、6人を助けに行くです!!!」

リズム「行くよ!!!」

兵士「あれはなんだ？」

プリキュア「はあああああああああ!!!」

兵士「きやがつたな!!!奴らが!!!」

兵士長「出逢え!!!!!!」

兵士たち「はっ!!!」

たくさんの兵士がプリキュアに襲いかかる。

続く

5
6
:
2
1

忍び寄る海賊

ある時空間……、ある時空マシンがプリキュアの世界に向けて、
とんでいった。

ウー――

ウー――

ウー――

???「機械の調子は大丈夫か？」

「はい、大丈夫です!!」

???「時間は？」

「60時12分75秒です」

???「ならば、予定通りだな」

「はい！…ドラム―船長！…！」

ドラム―は、時空海賊の女船長である。

ドラム―「我らの目的は、キュアブラッドの『あるもの』だ。それを忘れるな」

「はっ！…！」

その頃、デスゴール城では、・・・

アクア「はあああああああ！…！」

ドカ！…！

兵士「うぐ…。」

ムーンライト「シルバーインパクト!!」

兵士「どわああああああ!!」

兵士を片づいた。

レモネイド「終わった!!」

ハニィ「早く先に行くニヤ!!」

プリキュアが先に行くと、ひとりの男が立っていた。

兵士長「ようこそ、プリキュア諸君・・・。」

ホワイト「あ、あなたは・・・!!」

続く

フランスの国王

ホワイト「あ、あなたは……！！！！ルイ16世！！！！」

ルイ「いかにもそうだ」

ミント「もう、死んだはずじゃ……？」

ルイ「キュアブラッド様のお力で生き返ったのだ。」

パッション「そんなことができるなんて……」

ルイ「ちなみに、兵士たち全員処刑されたものだ」

マリン「うそ！！？」

ビート「どうりで手応えが足りなかったら……」

ルイ「忠告しておこう。あと48：20で6人は処刑だ！！」

「!!!!!!!!!!!!!!」

みんなは驚きを隠せなかった・・・

イーグレット「あと、・・・48分・・・!?!」

みんなから、汗が出る・・・

処刑場・・・

ブロッサム「あと48分ですか・・・?」

ブラッド「ははは、お前たちの死が近づいておる。」

ピーチ「そんな・・・」

ブラック「そんなことない!!!!!!」

ブラッド「な！！」

ドリーム「みんなが助けに来てくれるのよ！！！そんなことない！！！」

するとブラッドは、落ち着いた様子でこついった。

ブラッド「20分経過させる・・・」

「！！！！！！！」

タイムリミットまで28：10・・・

続く

時間短縮

28:10・

ルイ「お、今時間が短縮されたぞ。」

リズム「じ、時間短縮!？」

マリン「ちょ、ちょっと待って!!!!どういうこと!!!!?」

ルイ「つまり、処刑されるまでの時間が縮んだのだ。寿命が縮んだ事だな」

「!!!!!!!!!!!!」

みんな、また驚きを隠せなかった。

ルージュー「でも、その前にあなたを倒せば、ドリーム達を助けるのね!!」

ルイ「俺を倒したところで、どうなる。処刑場では、デームの他に

キュアブラッド様もいるんだぞ？お前達が適う訳がない。それに俺に叶うかどうか。」

マリン「叶うに決まってるでしょ！！！」

ビート「あなたを倒して、メロディ達を助ける！！！」

ルージュ「行くよ、みんな！！！」

「おう！！！」

みんな、ルイ16世に立ち向かう……。

デスゴール城の入口にマスクをかぶった、ひとりの女がいた……。

「……」

そして、静かに中に入っていく・・・

続く

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5981v/>

処刑台への1時間

2012年1月8日10時45分発行